

2009年度第2回阪神地区研究会 報告

平成22年3月22日作成

日時：2010年2月18日（木） 13:00～16:40

会場：大阪成蹊大学・短期大学 北館300教室

テーマ：「記録をいかすレファレンス」

講演：「図書館のサポート力アップにつなげよう：レファレンス記録の活用」

坂本 恭子（大阪女学院大学・短期大学 図書館長）

【内容概要】

学内や自宅のIT化が進み、学生や教職員は、デジタル化した資料を利用できるようになり、司書の援助なく情報を得られるようになった。かつては、参考図書を駆使して回答をしていたようなレファレンスの質問は少なくなったが、単純な「やさしい英語の本はどこですか」や機器の使い方のような「この画面の印刷がはみ出てしまう」などが多くなった。大阪女学院図書館は回答に時間のかかる質問から単純な質問まで記録している。これらの記録を分析、共有して、司書力のアップをはかったり、図書館のサービスの改善に利用している。また、図書館利用のバロメータとして、貸出冊数とともに図書館PRに利用している。大学が開校してから、6年目、学生数 900名の単科大学のレファレンス記録の使い方が紹介された。

講演：「リサーチ・ナビを使いこなす—国立国会図書館におけるレファレンス記録および活用—」

小川 那瑠（国立国会図書館関西館文献提供課参考係）

【内容概要】

国立国会図書館では、インターネット上で利用できる各種レファレンスツールを提供しています。本講義では、2009年5月より公開した「リサーチ・ナビ」を中心に、各種ツールの利用方法をご案内するとともに、当館でのレファレンス記録および、その活用についての報告を聞いた。

申込校数：51校

申込人数：67名

参加校：48校

参加人数：64名（欠席報告:4名 当日参加:1名）